
Press Release プレスリリース

2018年 7月 5日
神戸大学

平成30年度（平成29年度実施）神戸大学学部一般入試の 理科（物理）における採点の見直しについて

このたび、平成30年2月25日に実施いたしました平成30年度神戸大学学部一般入試（前期日程）の理科（物理）の問題を検証した結果、採点結果が変更になることが判明しました。

なお、採点結果の変更に伴い、あらためて理科（物理）を受験した全員の答案の採点及び合格者判定を行いました。合否への影響はありませんでした。

1. 概要

(1) 入試区分

学部一般入試（前期日程）

(2) 試験実施日

平成30年2月25日（日）

(3) 合格発表日

平成30年3月9日（金）

(4) 該当科目

理科（物理）

(5) 実施学部

国際人間科学部（発達コミュニティ学科、環境共生学科（理科系受験）、子ども教育学科）、理学部、医学部、工学部、農学部、海事科学部

(6) 受験者数

一般入試（前期日程）：2, 237人

(7) 該当問題の配点（素点）

3点

(8) 該当科目の満点（素点）

75点

2. 内容

該当問題：理科（物理）問題Ⅰ 問1

内容：問題文において、受験生に誤解を与える表現があった。

※試験問題及び詳細については別紙を参照

3. 発見の経緯及び経過

平成30年6月9日（土）日本物理教育学会近畿支部主催の「物理教育を考える会Ⅰ」（大学入試問題検討会）において、「『向き』ではなく『方向』を問われているので、『鉛直方向』を答えとしていいのか」との指摘があり、内容について検証した結果、採点結果を見直すこととした。

4. 対応

理科（物理）を受験した全員の答案の採点を再点検した結果、当該問題について「鉛直方向」及びこれと同様の解答を行った10名を正解にする扱いとした。

※試験問題及び詳細については別紙を参照

5. 原因

高等学校での理科（物理）では、「向き」と「方向」を使い分けていることについて、認識が十分ではなく、問題作成時及び確認時に理科（物理）の教科書や、学習指導要領の点検が不十分であった。

6. チェック体制

試験実施前：作問統括者、作問者によるチェック、問題検討者によるチェックをそれぞれ複数回行った。

試験当日：作問統括者、作問者により解答作業を行った。

採点時：予備校の解答例も参考に点検を行った。

7. 今後の対応策

入試問題のチェック体制を見直し、従来実施してきた作問統括者、作問者、問題検討者による複数回のチェックに加え、今回の事例を踏まえ、問題作成時及び検討時に教科書や学習指導要領を確認し、確認結果をチェックシートに記録するようにする。

さらに、試験実施後のチェック体制を検証し、体制の強化を図っていきたい。

【試験問題 理科（物理）】

I 次の文章を読んで、問1～4に答えなさい。(配点25点)

図1のように、ばね定数が k のばねの右端を壁に固定し、左端に軽い糸を取り付け、滑らかに回る軽い滑車に通す。糸の端に質量が m の小球をつなぎ、滑らかで水平な床の上に置いたところ、床から離れることなく静止した。この状態で、滑車から小球まで鉛直に伸びる糸の長さは L 、ばねの自然長からの伸びは d であった。鉛直下方にはたらく重力加速度の大きさを g とする。ただし、滑車や小球の大きさは十分に小さいと仮定する。

問1 小球が床から受ける垂直抗力の、大きさと方向を求めなさい。

○本学の下線部の解答例 鉛直上向き

○外部の指摘事項

「向き」ではなく「方向」を問われているので、「鉛直方向」を答えとしていいのか。

⇒ 検証の結果「鉛直方向」及びこれと同様の答えも正解とする。

(当該箇所の配点は3点)。

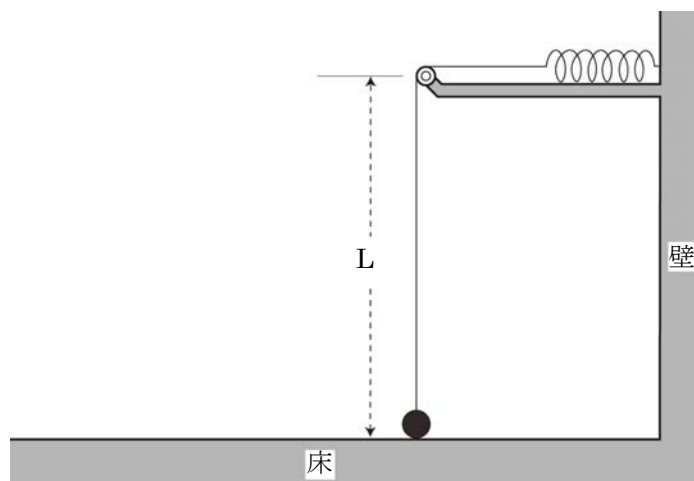


図1